令和9年度

大学院海洋科学技術研究科

博士後期課程 進学者選考

学生募集要項

（令和9年10月入学含む）

（第2次募集）

1．応用生命科学専攻

2．応用環境システム学専攻

令和８年１０月

国立大学法人
東京海洋大学
Tokyo University of Marine Science and Technology

東 京 海 洋 大 学　https://www.kaiyodai.ac.jp

目　次

◎出願の流れ i
◎ アドミッションポリシー 1
１．募集人員 4
２．出願資格等 4
３．出願期間 5
４．出願手続 6
５．進学者選考 10
６．不正行為の取扱い 10
７．合格発表 10
８．入学手続 11
９．検定料、入学料及び授業料 11
10．注意事項 11
11．教育研究上の目的 12
12．安全保障貿易管理 12
13．入学者選抜に用いた個人情報の取扱いについて 12
14．その他 13
東京海洋大学学業優秀学生奨学金について 16
◎専攻案内 17
●応用生命科学専攻 17
●応用環境システム学専攻 20

《重要なお知らせ》

〈インフルエンザ等罹患者への対応について〉

★学校保健安全法で出席の停止が定められている感染症に関する注意事項について

試験当日に、学校保健安全法施行規則で出席停止が定められている感染症（インフルエンザ、麻しん、新型コロナウイルス感染症等）にかかり治癒していない者は、他の受験者や監督者等への感染のおそれがありますので、受験を認めません。ただし、病状により学校医その他の医師おいて感染のおそれがないと認められた者は、この限りでありません。

なお、本学では上記理由による追試験や入学検定料の返還は行いません。

受験者の皆さんは、試験当日に万全の体調で試験に臨めるよう、感染予防・健康管理に十分ご留意願います。

[不測の事態が発生した場合の初連絡）

災害等により不測の事態が発生した場合、本学入学者選抜に関する情報提供は次の本学ホームページ等により行いますので、出願及び受験の直前は特に注意してください。

TOPページ（NEWS一覧→大学院入試　又は　入試情報→大学院入試→重要なお知らせ）

◎出願の流れ

出願の流れ

出願登録はインターネットで行います。出願登録から受験票の印刷までの流れは、以下の通りです。

STEP 1	STEP 2	STEP 3	STEP 4		STEP 5
事前準備	出願サイトにアクセス	マイページの登録	出願内容の登録	出願完了	受験票の印刷

STEP 1 事前準備

- インターネットに接続されたパソコン、プリンターなどを用意してください。
- 本学所定様式をダウンロードし、内容を作成のうえPDFに変換しておいてください。また、その他必要書類を準備しておいてください。

※本学所定様式及び必要書類は、必ず募集要項で確認してください

STEP 2 インターネット出願サイトにアクセス

▼インターネット出願サイト

https://e-apply.jp/ds/tkaiyo-gs/

STEP 3 マイページの登録

出願登録には事前にマイページの作成が必要となります。
マイページ登録後、出願期間になったら専用サイト及び画面の手順に従って、必要事項を入力してマイページ登録を行ってください。
なお、マイページの登録がお済みの方は、STEP4に進んでください。

①初めて登録する方は マイページ登録 からログインしてください。

②メールアドレスの登録を行って 仮登録メールを送信 > をクリックしてください。

③ユーザー登録画面から ログインページへ をクリックしてください。

④登録したメールアドレスに初期パスワードと本登録用URLが届きます。
※@e-apply.jpのドメインからのメールを受信できるように設定してください。

⑤ログイン画面から登録したメールアドレスと④で届いた「初期パスワード」にて ログイン をクリックしてください。

⑥初期パスワードの変更を行ってください。

⑦表示された個人情報を入力して 次へ をクリックしてください。

⑧個人情報を確認して この内容で登録する をクリックしてください。

⑨登録完了となります。
マイページへ を
クリックしてください。

⑩上記ページが表示されたら
マイページ登録は完了です。

※出願受付中の場合のみ、出願手続きを行う > ボタンをクリックすると出願手続に進めます。
登録期間外の場合は、これより先に進めませんので ログアウト ボタンをクリックしてください。

STEP 4 出願内容の登録

マイページ登録が完了された方は、出願サイトTOPページのログインからマイページに登録したメールアドレス及び設定したパスワードを入力し画面の手順や留意事項を必ず確認して、画面に従って必要事項を入力してください。

①マイページログイン後の
出願手続きを行う > ボタン
から登録画面へ

②志望課程、選抜区分の選択、
パスワードの入力(※)及び
留意事項の確認

③志望専攻等の選択及び希望
進学年月、指導予定教員の
入力

④顔写真のアップロード
写真選択へ > ボタンをクリックし
写真を選択します。

⑤個人情報(氏名・住所等)の
入力及び出願書類のアップ
ロード

⑥出願内容の確認
出願書類(PDF)(サンプル) ボタンを
クリックし出願書類を確認してください。
申込内容に間違いがなければ、
この内容で登録する ボタンを
クリックしてください。

⑦出願申込完了
受付番号(12桁)が表示されます。必ず
控えてください。

(※)大学院博士後期課程(進学者選考)を出願する場合は、検定料の支払いはありません。ただし、検定料免除のパスワードの入力が必要ですので、事前にパスワードの申請を入試課入試第二係にしてください。(申請方法は、学生募集要項を確認すること。)

出願申込完了後は、登録内容の修正・変更ができませんので誤入力のないよう注意してください。

出願申込完了後に出願登録完了メールが送信されます。メールを受信制限している場合は、送信元(@e-apply.jp)からのメール受信を許可してください。 ※送信メールが迷惑フォルダなどに振り分けられる場合がありますので、注意してください。

〈出願完了〉

出願時の注意点

出願はインターネット出願サイトでの登録が完了した時点で、出願完了となります。

インターネット出願は24時間可能です。インターネット出願登録期間は学生募集要項に記載の通りです。ゆとりを持った出願を心がけてください。

STEP 5 受験票の印刷

出願期間後に、インターネット出願サイトから受験票が印刷できるようになります。受験票が印刷可能になったら、メールで通知が届きます。
「インターネット出願システム　ログイン」ボタンからログインして、必ず各自で受験票を印刷し、試験当日に持参してください。

※パソコン等の画面上の受験番号と、実際に印刷された受験票の受験番号が一致していることを必ず確認してください。

◎ アドミッションポリシー

【博士後期課程】

１．受け入れる学生に求める関心・意欲

大学院海洋科学技術研究科博士後期課程では、時代や社会に機動的に対応でき、地球規模での海洋に係わる諸課題の解決に創造的に立ち向かい、かつ、海洋とその関連産業分野における先端領域を切り拓く、意欲と能力を持つ学生を求めます。

２．受け入れる学生に求める学修成果

(1)専門的学識

自立した研究者として海洋・水産・海事における諸課題の解決に独創的に取り組むための高度に専門的な知識と研究手法の修得

(2)豊かな国際性と幅広い教養

異分野との協働や英語による情報発信などグローバルに活躍する人材に求められる幅広い教養と国際的・文化的素養

(3)自ら考え判断する能力

自身が行う研究について学術研究における倫理性と学術的意義を理解し、適切な研究計画を立案し遂行でる能力

(4)現場で通用する実践力

得られた研究成果を論理的に説明できる能力、並びに自身の行う研究と社会との関わりについて自覚し、異分野の研究者や国際的な交流を通して多様なアプローチを考案しながら問題解決に結びつける積極性

３．入学者選抜での評価方法

入学者選抜に際しては、「求める学生像」にふさわしい学生を選抜するため、一般選抜、進学者選考、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜および外国人留学生特別推薦選抜を実施し、学生を選考します。

・一般選抜

学力検査、成績証明書等により総合的に評価を行う。

・進学者選考

学力検査の結果をもとに総合的に評価を行う。

・社会人特別選抜

学力検査、業績の評価、成績証明書等により総合的に評価を行う。

・外国人留学生特別選抜

学力検査、成績証明書等により総合的に評価を行う。

・外国人留学生特別推薦選抜

書類審査または口述試験により総合的に評価を行う。

応用生命科学専攻

１．受け入れる学生に求める関心・意欲

海洋生物資源、食資源など応用生命科学に係る諸問題の解決、さらにそれら資源の保全と持続的利用を目指して、これらの機能性の解明、生物活動の特徴と営みの解明もしくは利用の研究に関心を持ち、自らそれらの課題設定を行い、解決と応用展開が出来る意欲ある学生を求めています。

２．受け入れる学生に求める学修成果

(1)専門的学識

自立した研究者として応用生命科学領域における諸課題の解決に独創的に取り組むための高度に専門的な知識と研究手法の修得

(2)豊かな国際性と幅広い教養

異分野との協働や英語による情報発信などグローバルに活躍する人材に求められる応用生命科学領域に関する幅広い教養と国際的・文化的素養

(3)自ら考え判断し表現する能力

社会的背景を踏まえ、応用生命科学領域に関する解決すべき課題について論理的に思考し、問題解決に向けた適切なアプローチができる基礎的な能力

(4)現場で通用する実践力

応用生命科学領域に関する自分の考えをわかりやすく他者に伝える表現力や、積極的に他者と交流するコミュニケーション能力と社会に対する責任感

３．入学者選抜での評価方法

入学者選抜に際しては、「求める学生像」にふさわしい学生を選抜するため、一般選抜、進学者選考、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜および外国人留学生特別推薦選抜を実施し、学生を選考します。

・一般選抜

学力検査、成績証明書等により総合的に評価を行う。

・進学者選考

学力検査の結果をもとに総合的に評価を行う。

・社会人特別選抜

学力検査、業績の評価、成績証明書等により総合的に評価を行う。

・外国人留学生特別選抜

学力検査、成績証明書等により総合的に評価を行う。

・外国人留学生特別推薦選抜

書類審査または口述試験により総合的に評価を行う。

応用環境システム学専攻

１．受け入れる学生に求める関心・意欲

海を知り、守り、利用する観点から、海洋環境の調査や保全・修復のテクノロジー、海上輸送と港湾における物流、エネルギーの高効率利用に関わる先進の科学技術について、多面的思考を以って取り組むことによって問題解決に至る能力を有する学生を求めます。

２．受け入れる学生に求める学修成果

(1)専門的学識

自立した研究者として応用環境システム学領域における諸課題の解決に独創的に取り組むための高度に専門的な知識と研究手法の修得

(2)豊かな国際性と幅広い教養

異分野との協働や英語による情報発信などグローバルに活躍する人材に求められる応用環境システム学領域に関する幅広い教養と国際的・文化的素養

(3)自ら考え判断し表現する能力

社会的背景を踏まえ、応用環境システム学領域に関する解決すべき課題について論理的に思考し、問題解決に向けた適切なアプローチができる基礎的な能力

(4)現場で通用する実践力

応用環境システム学領域に関する自分の考えをわかりやすく他者に伝える表現力や、積極的に他者と交流するコミュニケーション能力と社会に対する責任感

３．入学者選抜での評価方法

入学者選抜に際しては、「求める学生像」にふさわしい学生を選抜するため、一般選抜、進学者選考、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜および外国人留学生特別推薦選抜を実施し、学生を選考します。

・一般選抜

学力検査、成績証明書等により総合的に評価を行う。

・進学者選考

学力検査の結果をもとに総合的に評価を行う。

・社会人特別選抜

学力検査、業績評価、成績証明書等により総合的に評価を行う。

・外国人留学生特別選抜

学力検査、成績証明書等により総合的に評価を行う。

・外国人留学生特別推薦選抜

書類審査または口述試験により総合的に評価を行う。

◎ 出 願

1. 募集人員

●令和９年４月入学

専　　攻　　名	募集人員
応　用　生　命　科　学　専　攻	１４名
応 用 環 境 シ ス テ ム 学 専 攻	９名

●令和９年１０月入学

専　　攻　　名	募集人員
応　用　生　命　科　学　専　攻	若干名
応 用 環 境 シ ス テ ム 学 専 攻	若干名

注）募集人員は、各専攻とも進学者選考と別途選抜の一般選抜、外国人留学生特別選抜および社会人特別選抜を合計したものです。

2. 出願資格等

「【１】出願資格」に該当し、かつ「【２】出願要件」を満たす者

【１】出願資格

東京海洋大学（海洋科学技術研究科）博士前期課程に在学する者で次の各号のいずれにも該当する者とします。

（１）博士前期課程を修了後、引き続き博士後期課程に進学を希望する者
（２）令和９年４月進学志願者は令和９年３月、令和９年１０月進学志願者は令和９年９月に修士の学位を取得する見込みの者

【２】出願要件

出願前に指導予定教員に連絡をとり、かつ指導予定教員から受験の承諾を得た者

＊指導予定教員の連絡先は、専攻案内にある各専攻の「指導教員一覧」をご覧ください。
＊出願する際の提出書類への指導予定教員のサイン及び押印は不要です。（入試課で受験承諾の確認を行います。）

〈大学院入試Q&A〉
本学ホームページに大学院入試に関するQ&Aを掲載していますので、出願にあたってはそちらもご覧ください。
TOPページ(HOME→ 入試情報→大学院入試→入試Q&A)

※入試日程や実施方法については、変更される可能性があります。ホームページで最新の情報をご確認ください。

３. 出願期間

令和８年１１月３０日（月）～ １２月３日（木） １６：３０

出願上の諸注意

(1) 出願完了後は、出願登録内容及び提出した出願書類の変更は認めません。

(2) 出願登録及び出願書類の内容と相違する事実が判明した場合は、受験を許可しないことがあります。また、合格者発表後又は入学後であっても、合格又は入学を取り消すことがあります。

問い合わせ等

インターネット出願サイトの操作方法に関する問合せ
「学び・教育」出願・申込サービス サポートセンター
（運用会社：株式会社キャリタス）
電話　0120-202-079（出願期間中24時間対応）

入試に関する問合せ/出願書類提出先
東京海洋大学　入試課入試第二係
〒108-8477　東京都港区港南4-5-7
電話　03-5463-4265　（平日 9:00～17:00/土・日・祝日を除く）
メール n-nyusi2@o.kaiyodai.ac.jp

※やむを得ない場合を除き、志願者本人が問い合わせてください。

インターネット出願システムのログインについて
出願登録、必要書類印刷、受験票印刷等でインターネット出願システムへのログインが必要になります。ログインは、出願サイトからログイン画面にアクセスして、マイページ登録時に入力した「メールアドレス」及び「パスワード」を入力してください。

4. 出願手続

出願にあたっては、必ず指導予定教員に事前に連絡をとり、受験の承諾を得てください。

＊指導予定教員の連絡先は、専攻案内にある各専攻の「指導教員一覧」をご覧ください。

＊提出書類への指導予定教員のサイン及び押印は不要です。（入試課で受験承諾の確認を行います。）

出願手続きは、出願期間内にインターネット出願システムにて出願登録をすることによって完了します。なお、出願登録には事前にマイページの登録が必要です。

PROCESS 1	事　前　準　備	インターネット出願する前に必ず確認してください。

⇓

PROCESS 2	インターネット出願登録	パソコン等で本学ホームページからインターネット出願システムにアクセスし、マイページ登録、インターネット出願登録をしてください。また、本学指定出願書類をアップロードしてください。 令和8年11月25日（水）10:00 ～ 12月3日（木）16:30

⇓

PROCESS 3	受験票等の印刷	出願が受理された方は、出願期間後にインターネット出願システムから受験票が印刷できるようになります。受験票は志願者各自が印刷して、必ず試験当日に持参してください。

PROCESS 1	事　前　準　備

(1) パソコン等の動作環境

インターネット出願は、以下の環境で行ってください。

〈ブラウザ〉

・Microsoft Edge 最新版　・Google Chrome 最新版　・Mozilla Firefox 最新版　・Apple Safari 最新版

※ブラウザのタブ機能を使用して複数のタブで同時に申込操作を行うと、選択した内容が他のタブに引き継がれてしまう不具合が発生する場合があります。複数のタブでの同時操作はしないでください。

※スマートフォンやタブレット等のモバイル端末は、閲覧等可能ですが推奨環境ではありませんので、一部の端末からは画面が正常に表示されない場合があります。また、印刷するための印刷機能を必要としますので、パソコンからの利用を推奨します。

※最新版はそれぞれのブラウザを立ち上げて以下のURLにアクセスして確認してください。

・Microsoft Edge⇒　edge://settings/help

・Google Chrome⇒　https://www.google.com/intl/ja/chrome/update/

・Mozilla Firefox⇒　https://support.mozilla.org/ja/kb/find-what-version-firefox-you-are-using

(2) プリンター、用紙等の用意

様式類は、A4サイズ普通紙に印刷する必要がありますので、プリンター及び印刷用紙（普通紙、PPC用紙、OA用紙、コピー用紙等）を用意してください。印刷条件に適合していれば、公共施設やコンビニエンスストアの印刷サービスを利用して印刷しても構いませんが、個人情報の取り扱いには十分注意してください。

(3) メールアドレスの用意及びメールの受信設定

出願にはメールアドレスが必要となりますので、事前にメールアドレスを用意してください。スマートフォン、携帯電話等のメールアドレスも利用可能です。なお、ドメイン指定受信を設定されている方は、次のドメインからのメールを受信できるように設定を追加してください。

@e-apply.jp

@o.kaiyodai.ac.jp

マイページに登録したメールアドレスに、マイページ登録時や出願登録時にメールが送信されます。

※一度登録したメールアドレスは変更できません。

(4) 本人写真データの用意

写真は本人確認に利用しますので、出願前3か月以内に撮影した正面、上三分身（おおむね胸の上）、脱帽、背景無しのカラー写真データを用意してください。（.jpeg、 .jpg、 .png、 .bmp ファイルサイズは10MBまで）

※使用できない写真の例

不鮮明、背景が暗い、顔が横向き、複数名で写っている、画像に加工を施している（目を大きく見せたり、本人のイメージを変えるような加工）、現像された写真を再撮影しているもの等

(5) 本学所定様式のダウンロード及び作成

本学所定様式（令和８年１１月上旬に本学ホームページに掲載。研究計画書）をダウンロードし、出願期間までに作成のうえＰＤＦに変換しておいてください。PROCESS 2(3)において出願サイト上でアップロードします。なお、ＰＤＦに変換するときは、一つ一つの書類ごとにファイルを分けて変換し、ファイル名を付けてください。

※「進学願書」は、見本（ＰＤＦ）を参考にして内容を考えておいてください。PROCESS 2(2)出願登録の段階で、作成した内容を出願サイト上で入力します。

(6) 検定料免除のパスワード申請

大学院博士後期課程（進学者選考）を出願する場合は、検定料の支払いはありませんが、インターネット出願サイト登録時に、検定料免除のパスワードを入力する必要があります。パスワードについては、

令和８年１１月１８日（水）までに以下のURL先より検定料免除のパスワード申請をしてください。

https://forms.cloud.microsoft/r/Lc8DyrUQy

PROCESS 2	インターネット出願登録及び本学指定出願書類のアップロード

(1) インターネット出願サイトにアクセス

本学ホームページ（https://www.kaiyodai.ac.jp/）から、インターネット出願サイトにアクセスし、トップページにある「マイページ登録」にて必要事項を入力・登録後、出願登録を行ってください。すでにマイページ登録済みの方は、「ログイン」から登録したメールアドレス及びパスワードを入力し、出願登録を行ってください。なお、マイページに登録するメールアドレスは、連絡時に使用しますので、志願者本人と確実に連絡が取れるメールアドレスを入力してください。

(2) 出願登録

入力画面に沿って、志願者情報等を登録してください。

また、パスワード入力の画面の際に、申請した検定料免除のパスワードを入力してください。

※指導予定教員は、事前に連絡をとり受験の承諾を得た教員名を入力してください。

※志願者情報の「電話番号」は、連絡時に使用しますので、志願者本人と確実に連絡が取れる番号を入力してください。

※あて名票住所は、日本国内の住所を入力してください。本学から書類等を郵送する際の送付先になりますので、書類等が確実に受け取れる住所を入力してください。

※顔写真データのアップロードもここで行います。画面上で写真サイズを切り取り（トリミング）することもできます。

(3) 出願書類のアップロード

下表の書類をＰＤＦファイルに変換したうえで、出願サイト上でアップロードしてください。

（ファイルには名前を付けてください。）

出　願　書　類	注　　意　　事　　項
①修士論文要旨	博士前期課程での研究内容の要約をＡ４版用紙横書きで１,０００字（英文の場合は３５０words）程度で作成してください。 なお、修士論文要旨には、志望専攻名及び氏名を記載してください。
②研究計画書	本学所定様式（ダウンロード書式）により、希望する研究課題を指導教員と相談の上、２,０００字（英文の場合は７００words）程度で作成してください。

※１ 提出された書類等に不備がある場合には、受理しません。また、受理後の出願書類等の変更・追加は認めません。

※２ 日本語及び英語以外の言語で作成された書類等には、日本語訳又は英訳を必ず添付してください。

※３ いったん受理した出願書類等は、いかなる理由があっても返却できません。

※４ 出願書類等に虚偽の記載をした場合、記載すべき事項を記載しなかった場合または提出すべき書類を提出しなかったことが判明した場合は、進学決定後でも進学許可を取り消すことがあります。

※５ 記載された個人情報は、東京海洋大学において責任をもって管理します。

※６ 出願書類の種類、記載内容の誤字脱字などが無いか、アップロード前に必ず確認をしてください。

(4) 出願内容確認

入力が完了すると、出願書類（サンプル）のボタンが表示されます。内容をよく確認して、誤りがなければ、「この内容で登録する」ボタンをクリックしてください。

(5) 登録完了

画面に「受付番号」が表示されたら入力は完了です。登録したメールアドレス宛に、出願登録完了メールが届きます。メールに記載されている受付番号は、出願内容の確認等に用いますので入試終了まで大切に保管してください。

※「受付番号」は受験番号ではありません。受験番号は出願期間終了後に発行される「受験票」に記載されます。

【インターネット出願に関する注意事項】

・インターネット出願登録完了後は、登録内容の修正及び変更はできませんので、誤入力のないように注意してください。

・顔写真データは、出願写真として適切でないと判断された場合には、再提出となる場合があります。

PROCESS 3	受 験 票 等 の 印 刷

受験票の印刷可能期間内にインターネット出願システムにログインして受験票を印刷し、必ず試験当日に持参してください。大学から受験票の発送は行いませんので、各自で印刷してください。

受験票の印刷可能開始日時	令和８年１２月２２日(火)　15時頃

【受験票に関する注意事項】

・受験票を印刷後、記載内容を必ず確認してください。受験日程等の案内も表示されますので、注意して読んでください。

・出願登録した内容と異なっている場合や印刷ができない場合は、入試に関する問合せ先（入試課入試第二係　TEL 03-5463-4265）に、以下の期日までに連絡してください。

受験票問い合わせ期日　：　令和８年１２月２４日(木)

・インターネット出願登録した際の受付番号は、受験番号ではありません。試験当日は受付番号での受験はできませんので必ず受験票を持参してください。

・試験当日にスマートフォン等で画面表示による受験票の提示は認めません。必ず印刷した受験票を持参してください。

インターネット利用や印刷の環境がない場合は、公共図書館のインターネットサービスを利用する等の対応により、出願してください。以上の対応によってもインターネット出願の利用が難しい場合は、入試に関する問合せ先（入試課入試第二係　　TEL 03-5463-4265）に相談してください。

5. 進学者選考

（１）実施方法

進学者の選考は、学力検査（口述試験）の結果をもとに行います。

なお、口述試験では、提出書類（修士論文要旨等）についても発表していただきます。

（２）学力検査の日時及び場所

※入試日程や実施方法については、変更される可能性があります。ホームページで最新の情報をご確認ください。

学力検査（口述試験）	試 験 場 所
令和９年２月２日(火)の専攻が指定する時間 （または、1月28日（水）～2月1日（月）で専攻が指定する日時）※※	品川キャンパス または 越中島キャンパス または 遠隔会議システムにより実施

※試験日時は受験生の了承を得た上で上記の期間に変更する場合があります。
詳細については各専攻から受験生本人に連絡します。

6. 不正行為の取扱い

次のことをすると不正行為となります。不正行為を行った場合は、その場で受験の中止と退室を指示され、それ以後の受験はできなくなります。また、受験した全ての試験の成績を無効とします。

なお、不正行為については、状況により警察へ被害届を提出するなどの対応をとる場合があります。

(1) 入学志願票、受験票へ故意に虚偽の入力（インターネット出願登録の際に受験者本人以外の写真データを取り込むことなど。）又は出願書類へ故意に虚偽の記入をすること。
(2) カンニング（カンニングペーパー･参考書･他の受験者の答案等を見ること、他の人から答えを教わることなど。）をすること。
(3) 他の受験者に答えを教えることやカンニングの手助けをすること。

上記 (1) ～ (3) 以外にも、次のことをすると不正行為となることがあります。指示等に従わず、不正行為と認定された場合の取扱いは、上記 (1) ～ (3) と同様です。

(4) 試験時間中に携帯電話や時計等の音（着信･アラーム･振動音など。）を長時間鳴らすなど、試験の進行に影響を与えること。
(5) 試験に関することについて、自身や他の受験者を利するような虚偽の申し出をすること。
(6) 試験場において他の受験者の迷惑となる行為をすること。
(7) 試験場において監督者等の指示に従わないこと。
(8) その他、試験の公平性を損なうおそれのある行為をすること。

7. 合格発表

合格者の発表は、令和９年３月４日（木）１０時頃に合格者の受験番号を本学ホームページ上に掲載します。また、本人あてに合格通知書及び入学手続きに必要な書類を送付します。

東京海洋大学URL： https://www.kaiyodai.ac.jp/（電話その他による問い合わせには一切応じません。）

※事務処理の都合上、合格通知書に記載される氏名の漢字を一部他のものに置き換える場合がありますので、ご了承ください。

8. 入学手続

令和９年３月８日（月）から３月１６日（火）

入学手続は、インターネット出願サイトの「入学手続きシステム」から本人情報の登録をした後に、必要書類の提出（郵送）をすることで完了します。

9. 検定料、入学料及び授業料（予定）

検定料　徴収しない

入学料　徴収しない

授業料　２６７，９００円（年額５３５，８００円）

※　入学時及び在学中に授業料の改定を行った場合は、改定時から新授業料が適用されます。

10. 注意事項

本選考に合格した者が、以下の期日までに修士の学位を取得できなかったときは、博士後期課程へ進学することはできません。

【期日】

・令和９年４月進学　　：　令和９年３月末日

・令和９年１０月進学　：　令和９年９月末日

11. 教育研究上の目的

本学大学院では、以下のとおり教育研究上の目的を定めています。

東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科における教育研究上の目的に関する規則（抜粋）

（目的）

第１条　この規則は、東京海洋大学大学院学則（平成16年海洋大規第101号）第４条第２項の規定に基づき、東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科（以下「研究科」という。）の各専攻における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を明確にするために定める。

（教育研究上の目的）

第２条　研究科においては，海洋とその可能性に興味と関心を持ち，海洋に関する学術の理論及び応用を探求し，先端領域を切り拓く高度の専門能力と独創性，及び国際的に活躍できる豊かな教養と倫理性を併せ持つ高度専門職業人や研究者を養成するとともに，海洋分野の諸課題に係わる基礎から応用に至るまでの高度な研究を行うことにより，直面する諸課題の解決を図ることで，人類社会の発展に寄与することを教育研究上の目的とする。

２　各専攻の教育研究上の目的については，次の表に掲げるとおりとする。

課程	専攻名	教育研究上の目的
博士後期課程	応用生命科学専攻	海洋生物の生理・生態・機能を総合的に解明し，海洋生物資源の持続的生産と高度有効利用に応用することを目的とする。具体的には海洋生物の保全，資源管理，増養殖，食品としての利用，有用物質の単離や生産を目指した先端的学理と技術開発に関する教育研究を行う。
	応用環境システム学専攻	海と人間の共生の観点から，海流の変動機構・物質拡散の計測と予測，資源探査技術の創出，海洋生物と環境の関わり，安全効率的な海上交通輸送システムの構築，先端推力・エネルギー機器・機械システムの開発，海洋管理政策提言等，海洋環境の解明・利用・保全に関する学理と技術に関する教育研究を行う。

12. 安全保障貿易管理

東京海洋大学では、「外国為替及び外国貿易法」に基づいて「国立大学法人東京海洋大学 安全保障輸出管理規則」を定めて、技術の提供及び貨物の輸出の観点から外国人留学生の受入れについては厳格な審査を実施しています。指導を受けたい教育研究内容等が規制されている事項に該当する場合は、希望する研究活動に制限がかかる場合や、教育が受けられない場合がありますので、願書の提出の前に必ず指導予定教員に相談し、出願にあたっては注意してください。

なお、安全保障貿易管理の詳しい内容は経済産業省ホームページの「安全保障貿易管理」を参照してください。
https://www.meti.go.jp/policy/anpo/

13. 入学者選抜に用いた個人情報の取扱いについて

① 出願に当たってお知らせいただいた氏名、住所その他の個人情報については、(1)入学者選抜（出願処理、選抜実施）、(2)合格発表、(3)入学手続、(4)入学者選抜方法等における調査・研究、分析及び(5)これらに付随する業務を行うために利用します。

② 各種業務での利用に当たっては一部の業務を本学より当該業務の委託を受けた業者（以下「受託業者」という）において行うことがあります。 業務委託に当たり、受託業者に対して、委託した業務を遂行するために必要となる限度で、お知らせいただいた個人情報の全部又は一部を提供します

③ 出願に当たってお知らせいただいた個人情報及び入試成績は、合格者のみ入学手続関係（入学料、授業料等）、教務関係（学籍データ等）、学生支援関係（健康管理、奨学金申請等）に関する業務を行うために利用します。また、入学準備資料送付のため、合格者の出願時の住所、氏名及び電話番号を東京海洋大学生協へ提供します。この個人情報は、入学準備資料の送付のみに使用されます。

14. その他

●授業料免除制度

本学では、大学院生に対する支援として、本学免除基準による授業料免除を実施します。
※国からの予算額の減少により、減免金額が減少する可能性があります。
※減免金額は、判定時の家計状況により審査の上、決定します。
４月より申請を受け付けますので、希望される方は忘れずに申請してください。詳細は大学ホームページに掲載する授業料免除の情報を確認してください。

●奨学金制度

学業成績が優秀で、かつ経済的な理由により修学が困難である者を対象とした奨学金制度があります。
主な団体は下記のとおりです。
・独立行政法人日本学生支援機構　https://www.jasso.go.jp/
・地方公共団体
・その他の民間奨学団体
なお、成績優秀な本学の博士前期課程２年次在籍者で、受験後引き続き１０月又は４月に博士後期課程へ進学する者（昨年度第二次募集の試験で既に合格が決定し、進学予定の者を含む）について、奨学金を給付する東京海洋大学学業優秀学生奨学金制度があります。詳細はP.14をご覧ください。

●学生寮の概要

(1) 目的
東京海洋大学学生寮は、本学の学生に生活と勉学の場を提供し、もって修学上の便宜を図ることを目的として設置された居住施設です。

(2) 管理運営
学生寮の管理運営は、東京海洋大学青鷹寮規則および東京海洋大学海王寮規則に基づいて行います。なお、学生寮に関する事務は学生サービス課学生生活係が担当しています。

(3) 名称・定員・所在地

名　　称	青鷹寮（せいようりょう） （品川キャンパス）	海王寮(かいおうりょう) （越中島キャンパス）
居　　室	352室　【個室（洋室）】 （研究者用、留学生用居室含む）	334名　【準個室（洋室）】 （1室を2部屋に区切り2人で使用）
面　　積	男子・女子（日本人学生用） 単身A室（32室）　約9㎡/居室 単身B室（186室）　約13㎡/居室	男子寮（129室）：約12.5～約18㎡ 女子寮（38室）：約12.5㎡
所 在 地	〒108-0075東京都港区港南4-5-34 （品川キャンパス内）	〒135-0044東京都江東区越中島2-2-8 （越中島キャンパス内）

(4) お問合せ先
東京海洋大学学生サービス課学生生活係　電話：03-5463-0433

(5) 入寮募集要項
入寮募集要項は、下記ＵＲＬ→入寮募集要項に掲載します。
入寮募集要項の公開時期は、下記ＵＲＬ→学生寮募集日程に掲載の各入寮年度の学生寮募集日程を確認してください。
学生寮関係URL：https://www.kaiyodai.ac.jp/campuslife/dormitory/

※外国人留学生対象の入居者募集について

外国人留学生対象の宿舎については、空室がある場合に大学ホームページで入居者募集を行っています。
TOP ページ（https://www.kaiyodai.ac.jp/）→在学生の方→在学する留学生向け情報→宿舎募集情報
（または、https://www.kaiyodai.ac.jp/international/foreignstudents/#anchor4）

●在学期間の短縮

本学大学院博士後期課程では、特に優れた研究業績を上げた者について、博士前期課程に２年以上在学し当該課程を修了した者については博士後期課程に１年以上、博士前期課程において在学期間の短縮を適用されて修了した者については当該博士前期課程の在学期間を含めて大学院に３年以上在学すれば修了できる制度があります。

●長期履修制度

本学大学院博士後期課程では、職業を有している等の事情により、標準修業年限（博士後期課程は３年）を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修することが出来る「長期履修制度」を設けています。

(1) 「長期履修制度」は社会人特別選抜での学生に限定していませんので、条件に該当していれば他の選抜区分の学生も対象となります。（ただし、外国人留学生の場合、「留学」の在留資格取得・更新に影響を生じる場合があります。）

(2) 申請期限は入学手続日を予定しています。

(3) 申請に必要な書類は指導（予定）教員から受け取り、修了の見通しについて指導（予定）教員と充分な打合せをしてください。

(4) 詳細は学務部教務課大学院係（TEL:03-5463-0395　E-mail: k-dai@o.kaiyodai.ac.jp）までお問い合わせください。

●学位

本学大学院博士後期課程において当該課程に３年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格した者は、博士（海洋科学又は工学）の学位が授与されます。

●コース・プログラム等

【海洋AI・データサイエンス学位プログラム】 博士前期・後期課程一貫、全専攻共通

本学では、ビッグデータ解析や機械学習法をリテラシーとして身につけ、本学が有する海洋、海事、水産の専門知識とフィールドに関する豊富な経験を元に、的確に人工知能を用い、その社会実装を主導するイノベータ・高度専門技術者や海洋政策の立案を行う人材である「海洋産業ＡＩプロフェッショナル」を育成する卓越した博士人材の育成を行う５年一貫教育プログラムで、博士後期課程は編入として社会人特別選抜の入学者並びに海洋AIコアコース修了者（資格審査による修了相当者を含む）を対象として受け入れを行っています。2024年４月から、海洋AI・データサイエンス学位プログラムとして運営しています。

各専攻の入学者選抜試験合格者を対象に志願者を募集し、選抜を行います。具体的な出願手続き、選抜日程については、「海洋AI・データサイエンス学位プログラム」ホームページに掲載します。

https://www.g2.kaiyodai.ac.jp/marine-ai

【食品サプライチェーン安全管理プログラム】応用生命科学専攻、応用環境システム学専攻

食品サプライチェーン安全管理に伴う課題については、博士前期課程食品流通安全管理専攻が中心となり、食品リスクをめぐるサプライチェーン全体の課題について的確な判断と問題解決能力を有する高度専門職業人の養成をめざして文理融合型・双方向コミュニケーション型の教育研究を行ってきました。こうした食品流通安全管理研究の分野統合型・実践研究型アプローチの実績に基づき、本研究分野の確立・発展のため、博士後期課程応用生命科学専攻及び応用環境システム学専攻に、専攻横断プログラムとして「食品サプライチェーン安全管理プログラム」が設置されました。

本プログラムでは食の安全・安心をめぐる現実の問題に対して、1）実現性の高い解決策、モデルを提供する、2）科学やリスクに対する社会的理解を深めるサイエンスカフェ等を実施することで、自然科学と社会科学を統合した文理融合型研究を進めることを目的とします。指定の科目を修得し博士後期課程を修了した者には、本プログラムの修了認定を授与します。

【広域履修コース】応用生命科学専攻

大学院教育改革支援プログラムの一環として、幅広い視野を持った人材育成のため、「研究・実務融合による食の高度職業人養成」プログラムを立ち上げ、広域履修コースを設定しました。なお、このプログラムは、文部科学省の教育改革支援プログラムに採択されました。指定の科目を修得し博士後期課程を修了した者には、本コースの修了認定を授与します。

【OQEANOUS Plus(オケアヌスプラス)プログラム】博士後期課程全専攻

OQEANOUS Plusプログラムは、日中韓の海洋系３大学（東京海洋大学、上海海洋大学、韓国海洋大学校）及びASEAN諸国の４大学（チュラロンコン大学、カセサート大学（以上タイ）、マラヤ大学（マレーシア）、ボゴール農科大学（インドネシア））が一体となった国際協働教育プログラムです。本学博士後期課程では、上海海洋大学及び韓国海洋大学校とのダブルディグリープログラムに参加することができます。

詳細はホームページを確認してください。

https://www.g2.kaiyodai.ac.jp/oqeanous/

【METIS(メティス)プログラム】博士後期課程全専攻

日・北欧連携国際協働教育「海洋の未来を創造する高度専門技術者」養成プログラム（METIS）プログラムでは、北欧の６大学（南デンマーク大学、デンマーク工科大学（以上デンマーク）、ノルウェー科学技術大学、ノルウェー北極大学、スタバンゲル大学及びノード大学（以上ノルウェー））と連携し、博士後期課程学生を対象とした、研究プロジェクト型/就業体験型インターンシップ派遣を実施します。

詳細はホームページを確認してください。

https://www.g2.kaiyodai.ac.jp/metis/

【創発的海洋研究・産業人材育成支援プロジェクト】博士後期課程全専攻

将来の我が国の科学技術・イノベーションの基盤となり、社会課題の解決に資する研究を担う博士人材を育成することを目的として、本学博士後期課程学生に対して、研究奨励費（生活費相当額（※）留学生は2026年度限り））及び研究費の支給並びにキャリア開発・育成コンテンツ等により、研究に専念できる環境を提供し、新海洋産業の創出を志向し、海洋社会の課題解決や社会変革に資する研究を遂行する「創発的海洋研究・産業人材」を育成することを目的として、「創発的海洋研究・産業人材育成支援プロジェクト」を実施しています。

なお、2027年度入学者対象プロジェクトは現在検討中です。

詳細はホームページを確認してください。

https://www.kaiyodai.ac.jp/s-project/

【国際魚介類感染症防疫中核拠点人材育成プログラムⅡ】応用生命科学専攻

魚病の診断・制御・予防およびWOAH疾病管理システムの知識を習得し、水圏生物生産工学研究所・感染症研究部門との連携で、国境を越えて伝播する養殖魚介類の感染症に関する先進的な研究を体験することにより、環太平洋地域において魚介類の国際防疫に携われる中核的人材の育成を行うプログラムである。私費外国人留学生、日本人学生の参加が可能です。本プログラム参加者は、大学院研究科長裁量経費（学生渡航支援等経費）、リサーチアシスタント（RA）の選考において優先されます。また、本プログラムに参加する私費外国人留学生は、学内宿舎の選考において優先（必ず入居できるわけではありません。）されます。

詳細はホームページを確認してください。

https://www.kaiyodai.ac.jp/international/

東京海洋大学学業優秀学生奨学金について

本学では、博士後期課程進学者を対象とした奨学金制度を実施しております。制度については以下の通りです。

(1) 申請資格

成績優秀な本学の博士前期課程２年次在籍者で、受験後引続き１０月又は４月に博士後期課程へ進学する者（昨年度第二次募集の試験で既に合格が決定し、進学予定の者を含む）。ただし入学を辞退した者は申請資格を失うものとする。

(2) 奨学金の額・・・10万円

(3) 授与人数　・・・最大10名

(4) 提出書類

①学業優秀学生奨学金申請書
②研究業績リスト
③在籍中の業績を証明する書類
④博士後期課程試験合格通知書

(5) 書類提出先

（品川キャンパス）学生サービス課奨学係
（越中島キャンパス）越中島地区事務室学生支援係

(6) 選考方法

「日本学生支援機構奨学金返還免除候補者の推薦に関する申合せ」を準用する。

※書類提出期限及び選考・決定日については、10月頃に大学ホームページでお知らせします。

その他ご不明な点等ありましたら、学務部学生サービス課奨学係までお問合せください。
(TEL:03-5463-0434　E-mail: g-syou@o.kaiyodai.ac.jp)

◎専攻案内

●応用生命科学専攻

１　アドミッションポリシー

＜受け入れる学生に求める関心・意欲＞

海洋生物資源、食資源など応用生命科学に係る諸問題の解決、さらにそれら資源の保全と持続的利用を目指して、これらの機能性の解明、生物活動の特徴と営みの解明もしくは利用の研究に関心を持ち、自らそれらの課題設定を行い、解決と応用展開が出来る意欲ある学生を求めています。

２　試験日程

選抜区分	試験区分	試験日	試 験 場 所
進学者選考	学力検査（口述試験）	令和９年２月２日(火)の専攻が指定する時間（または、１月２８日（木）～２月１日（月）で専攻が指定する日時）で専攻が指定する日時)	品川キャンパスまたは遠隔会議システムにより実施

３　出題範囲

口述試験は、修士論文等についての発表を含め行います。

4　専攻概要（専攻のホームページ　https://www.kaiyodai.ac.jp/faculty/graduate/main/#page8）

専　攻　名	専攻分野名	主な授業科目名
応用生命科学 海洋生物の特異な生理・生体･機能を、個体レベルから集団レベルにわたって総合的に解明し、その成果を環境との調和に基づく海洋生物資源の確保･維持管理、安全かつ高品質の海洋生物資源の増産及びそれらを利用した食品の設計、海洋生物の特異機能を応用した物質生産と次世代型機能性食品の創製等、生物生産系及び食品系の複合領域も含めて、海洋生物資源の持続的生産と高度有効利用に応用するための先端的学理と技術開発について教育研究します。研究・実務融合による高度専門職業人の育成を目指した「広域履修コース」も開設しています。	**応用生物科学** 海洋生物資源の持続的利用を目的として、生態系と環境との係わりを重視した海洋生物資源の確保・維持管理、安全かつ高品質の水産食資源の増産、海洋生物の特異機能を利用した有用物質生産等に関する先端的な教育研究を行います。	水族生理学特論 水族病理学特論 水族栄養学特論 水族養殖学特論 応用藻類学特論 集団生物学特論 保全増殖学特論 資源解析学特論 魚群制御学特論 生産システム学特論 応用生物科学合同セミナー 応用生物科学特別研究
	（連携講座）	魚類生理機能学特論 応用資源動態学特論 水産資源生態学特論 深海生物学特論
	食品機能利用学 水産生物の生命現象とその特性についての深い理解のもとに、それらを食品に変換して有効利用する際の諸問題に対して、化学・微生物学をベースとする研究分野と工学をベースとする研究分野の高度な融合によりアプローチします。とくに安全性と機能性に関する諸問題に重点を置き、水産食品だけでなく他の食品一般にも適用可能な安全性評価システムの確立、安全性確保・向上技術の開発、安全かつ機能性に富む食品の設計技術の確立へ応用するための先端的な学理と技術について総合的に教育研究を行います。	食品物理化学特論 食品機能化学特論 食品微生物学特論 食品保全化学特論 食品衛生化学特論 生体物質化学特論 食品熱操作工学特論 品質設計工学特論 食品冷凍学特論 品質設計化学特論 食品機能利用学合同セミナー 食品機能利用学特別研究
	応用生物工学 海洋には水産生物だけではなく、鉱物などの多様な海底資源が存在します。これら資源の有効利用を可能にするためには、水産学と工学とが融合したバイオエンジニアリングやバイオテクノロジーの先端的技術について、基礎から応用までを幅広く理解することが必要です。当分野では漁場環境の保全ならびに食品として安全な水産物を生産し流通するための養殖管理技術、魚介類有用遺伝子の機能解析とその応用に関するゲノムサイエンス、有用微生物の探索およびそれらの機能解析や応用などについて教育研究します。 また、生物を利用した海洋のエネルギーや鉱物資源開発などについての応用研究も目指します。	ゲノム科学特論 先端魚類防疫学特論 応用微生物学特論 食品流通安全管理特論 応用生物工学合同セミナー 応用生物工学特別研究
	（連携講座）	水産生物機能学特論
	各分野共通科目	応用生命科学インターンシップⅠ 応用生命科学インターンシップⅡ
博士後期課程全専攻 研究科共通科目		海洋科学技術特別講義Ⅰ 海洋科学技術特別講義Ⅱ

5 専門科目名及び指導教員一覧

応用生命科学専攻

＊の付いている指導教員については、募集の有無について未確定ですので、当該教員に直接お問い合わせください。

専攻分野名	専門科目名	指導教員名			連絡先ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ（～@kaiyodai.ac.jp）
応用生物科学	水族生理学特論	教授	＊	吉崎 悟朗	goro
		教授		矢澤 良輔	ryazawa
		准教授		森田 哲朗	tmorit0
		准教授		林 誠	mhay001
	水族病理学特論	教授		加藤 豪司	gkato00
	水族栄養学特論	教授		芳賀 穣	haga
		准教授		壁谷 尚樹	naoki.kabeya
	水族養殖学特論	教授		坂本 崇	takashis
		准教授		遠藤 雅人	asteroid
	応用藻類学特論	教授		二羽 恭介	kniwa00
	集団生物学特論	教授		横田 賢史	yokota
		准教授		山本 洋嗣	yyamam0
	保全増殖学特論	教授		團 重樹	sdan
	資源解析学特論	教授		北門 利英	kitakado
	魚群制御学特論	教授		秋山 清二	akiyama
	生産システム学特論	教授		塩出 大輔	shiode
（連携講座）	魚類生理機能学特論	教授		今村 伸太朗	（連絡先）佐野元彦教授 msano00
		教授		尾﨑 雄一	
（連携講座）	応用資源動態学特論	教授		米崎 史郎	（連絡先）塩出大輔教授
		教授		堀 正和	
（連携講座）	水産資源生態学特論	教授		佐々 千由紀	
				（未定）	
（連携講座）	深海生物学特論	教授		藤原 義弘	（連絡先）横田賢史教授
		教授		吉田 尊雄	
		准教授		生田 哲朗	
食品機能利用学	食品物性学特論	准教授		髙橋 希元	kigen
	食品機能化学特論	准教授		小山 智之	tskoyama
	食品微生物学特論	教授		久田 孝	kuda
		教授		高橋 肇	hajime
	食品保全化学特論	教授	＊	後藤 直宏	ngotoh
	食品熱操作工学特論	教授	＊	福岡 美香	fukuoka
		准教授		ラベ ペレス イヴァン アントニオ	pllave1
	品質設計工学特論	教授		萩原 知明	tomoaki
		准教授		柴田 真理朗	mshiba0
	食品冷凍学特論	教授		渡邊 学	mwat
	品質設計化学特論	教授		大迫 一史	osako
		准教授		耿 婕婷	jgeng00
応用生物工学	ゲノム科学特論	教授	＊	廣野 育生	hirono
		教授		近藤 秀裕	h-kondo
		准教授		小祝 敬一郎	koiwai
	先端魚類防疫学特論	准教授		二見 邦彦	futami
	応用微生物学特論	教授		小林 武志	takeshik
		教授	＊	濱田 奈保子	hsnaoko
	食品流通安全管理特論	教授	＊	濱田 奈保子	hsnaoko
		教授		井上 泉	iinoue0
		准教授	＊	永井 幸枝	ynag001
		助教		小林 征洋	yukihiro
（連携講座）	水産生物機能学特論	教授		山下 倫明	（連絡先）廣野育生教授
		教授		長井 敏	
		教授		安池 元重	

●応用環境システム学専攻

１　アドミッションポリシー

＜受け入れる学生に求める関心・意欲＞
　海を知り、守り、利用する観点から、海洋環境の調査や保全・修復のテクノロジー、海上輸送と港湾における物流、エネルギーの高効率利用に関わる先進の科学技術について、多面的思考を以って取り組むことによって問題解決に至る能力を有する学生を求めます。

２　試験日程

選抜区分	試験区分	試験日	試 験 場 所
進学者選考	学力検査（口述試験）	令和９年２月２日(火)の専攻が指定する時間（または、１月２８日（木）～２月１日（月）で専攻が指定する日時）	品川キャンパス または 越中島キャンパス または 遠隔会議システムにより実施

３　出題範囲

口述試験は、修士論文等についての発表を含め行います。

4　専攻概要（専攻のホームページ　https://www.kaiyodai.ac.jp/faculty/graduate/main/#page9）

専　攻　名	専攻分野名	主な授業科目名
応用環境システム学 海洋生物の変動機構の解明･予測、海洋環境を構成する物質の変動･拡散などの高精度予測技術開発、海上輸送システム、推力システム海洋構造部、海洋資源探査システムの構築や環境型推進エネルギー開発等､また､海洋環境保全･海と人間の共生の観点からその管理方策等を政策提言するための先端的学理と技術開発について教育研究します。	**海洋環境学** 海洋環境（水圏環境）を構成する物質や生物について高度に専門的な研究を行い、海洋環境の保全や資源の有効利用に資することを目的とします。①海洋生物の個体や集団についての自然史的、生命科学的、生態学的な研究、②海洋とその生態系における物質循環についての研究、③水圏環境における天然および合成化学物質についての地球化学的、生態化学的、応用生化学的な研究を中心に取り上げ、専門的な人材の養成を行います。	魚類学特論 藻類学特論 無脊椎動物学特論 浮遊生物学特論 資源生態学特論 鯨類生態学特論 物質循環論特論 水圏生態化学特論 水圏材料化学特論 海洋生化学特論 生体機能利用学特論 魚類生態学特論 海洋科学技術特別演習 元素動態特論 化学海洋学特論 海洋環境学合同セミナー 海洋環境学特別研究 海洋生態学特論
	環境保全システム学 海洋に生じる様々な時空間スケールの現象を観測・実験・理論により正しく把握し、現象発生のメカニズム、異なる現象間の相互作用を究明し、海洋環境変動予測を可能とするモデルを構築するための教育研究を行います。また、環境を保全しつつ合理的・持続的に海洋とその資源を利用するために、先端的理論・工学技術を駆使した計測・情報システムや生産システムの開発と高度化、環境のリスク管理とシステムの評価などについて、教育研究を行います。	海洋物理学特論 資源環境学特論 海洋情報解析学特論 環境測定学特論 環境数理科学特論 沿岸環境学特論 海洋計測工学特論 海洋環境機械学特論 応用情報システム工学特論 応用海洋数理工学特論 海洋環境工学 海洋統計工学 海洋環境工学演習 リスク管理工学 制御システム設計工学 システム安全工学演習 海洋文化学特論 海洋文化学演習 遠洋航海観測特別実習 環境保全システム学合同セミナー 環境保全システム学特別研究 国際海洋管理学特論 超電導工学 超電導工学実験
	（連携講座）	海洋生産環境学特論
	海洋利用システム学 海洋を大量輸送手段の場として利用する船舶や海洋からの恵みを環境に配慮しつつ利用するための海洋構造物、海中移動体などを中心に、それらの安全運航、測位、航法、制御、航路設計、管制システムの構築、あるいはそれらの設計に関し、高度に発展した電子、通信、情報、制御技術などを応用して創造し、海洋をその環境に配慮しつつ、人類の持続的繁栄のために最大限利用する高度な技術について教育研究を行います。	知識情報システム工学 知識情報システム演習 海洋知能ロボット工学 海洋知能ロボット工学実験 海洋計測特論 海洋計測実験 航路設計工学 航路設計工学演習 衛星測位システム 衛星測位システム実験 衛星航法工学特論 移動体最適制御 移動体最適制御実験 海洋施設工学特論 海洋施設工学演習 海上安全工学特論 海上安全システム実験 人間機械系工学 船舶耐航性能特論 耐航耐波システム実験 浮体操縦運動論 浮体操縦運動論実験 海洋利用リスク保険法学 海洋利用システム学合同セミナー 海洋利用システム学特別研究 運航支援システム特論 運航支援システム特論演習 安全運航管理特論 安全運航管理特論演習 海上輸送システム法学特論 自然言語処理特論

専　攻　名	専攻分野名	主な授業科目名
応用環境システム学	**海上安全テクノロジー** （大学院専任講座）（連携講座） 世界経済や日本の国民生活を支える海上輸送の発展や海洋開発にとって海や船の安全の確保は大前提でもあり地球環境保全の視点からも重要です。海や船の安全とそれを規定する要素と要件について考察し、海上技術安全研究所の研究業務と連携しながら、船の性能、操船の方法、船や材料の開発について教育と研究を行います。	海上輸送システム設計特論 海上輸送システム設計演習 安全推進システム設計工学特論 安全推進システム設計工学演習 海上交通システム設計特論 海上交通システム設計演習 海上電波通信・監視工学 交通安全工学特論 海上安全テクノロジー合同セミナー 海上安全テクノロジー総合特別研究
	ロジスティクス 生活や経済活動の基盤であり国際化・情報化により進展しているロジスティクスについて、輸送・保管・流通加工・流通情報・流通経営などの分野を対象に、経済的効率化や社会的効用の増進を目的として、海・陸・空の複合一貫輸送システム、生産から消費までの流通システム、物流と一体となった流通情報システム、およびロジスティクス・システム全体を対象として、計画・設計、運用管理、戦略・政策立案などに関する教育研究を行います。	交通システム計画工学特論 サプライ・チェイン最適化工学特論 交通ロジスティクス工学演習 物流設計工学特論 複合輸送システム工学特論 知覚情報処理特論 輸送情報システム実験 産業構造特論 国際交通産業特論 流通経済総合演習 交通政策特論 数理科学特論 応用解析特論 ロジスティクス合同セミナー ロジスティクス特別研究 情報数理特論 統計科学特論 離散数理特論
	海洋機械システム学 地球環境を護りつつ人類が海を有効にかつ安全に利用するために必要なさまざまな機械とそのシステムを取扱います。機械工学、電気・電子工学、エネルギー・環境工学、材料学、計測・制御工学、システム工学、安全工学などの総合的な知識を土台とし、舶用エンジン、タービン、発電機、舶用機械・電気設備、海洋構造物・海上プラント、海中ロボット、観測機器、燃料電池や超電導モータなどの新しい動力システム、新しい機器・材料などの最先端技術について教育研究を行います。	ロボット制御工学 ロボット制御工学実験 海洋システム制御工学 海洋システム制御実験 数理システム設計工学 数理システム設計演習 通信制御工学 通信制御工学実験 機能材料工学 機能材料工学実験 ターボ動力工学 ターボ動力工学実験 熱機関工学 熱機関工学実験 舶用推進工学 舶用推進工学実験 熱環境工学 熱環境工学実験 環境エネルギー工学特論 環境エネルギー工学実験 パワーエレクトロニクス パワーエレクトロニクス実験 材料表面工学 材料表面工学実験 材料環境工学 材料環境工学実験 熱移動現象学 熱移動現象学実験 熱エネルギー機器工学 熱エネルギー機器工学実験 数値流体力学 数値流体力学演習 光計測工学 光計測工学実験 機械設計工学 機械設計工学実験 海洋機械システム合同セミナー 海洋機械システム特別研究 環境デバイス物理工学 環境デバイス物理工学実験

専　攻　名	専攻分野名	主な授業科目名
応用環境システム学	**産業政策文化学** 海と人間との共生関係を解明して、よりよい海洋利用政策の提言を目指し、海洋資源の持続的な利用と新たな活用について研究、教育します。このため水産資源の生産、利用、加工や流通問題に取り組み、特に200海里体制後の資源維持、利用に関する社会科学的解明を行います。また海面や沿岸域のレジャーや健康関係への利用や、海洋利用と人間発達との関係、環境問題を主題とする文学の研究を行います。このように、海洋利用や海洋環境維持に関する文化的な諸問題も総合的に取り扱います。	沿岸域環境管理特論 沿岸域利用政策論特論 海洋産業経済学特論 国際漁業管理特論 身体適応学特論 水圏環境教育学特論 環境文学論批評特論 コミュニケーション関係論特論 食品リスクコミュニケーション特論 科学論特論 産業政策文化学合同セミナー 産業政策文化学特別研究 海洋産業経営論特論
	海洋探査・利用工学 （大学院専任講座）（連携講座） しんかい６５００、かいこう、うらしま、ＭＲＸ、北極海横断潜水調査船等の海洋ロボットプロジェクト、音響による水中物体探査や音響トモグラィーによる大域的海洋環境測定･解析プロジェクトおよび浮体による波力発電、潮力発電、空港や洋上プラント等の海洋利用プロジェクト等、世界をリードするビックプロジェクトの推進役である海洋研究開発機構の技術開発部門において、世界の主要研究機関と競合する研究開発に参画します。	水中探査システム工学特論 水中探査システム工学実験 水中音響システム工学特論 水中音響システム工学実験 浮体利用システム工学特論 浮体利用システム工学実験 海洋探査・利用工学合同セミナー 海洋探査・利用工学特別研究
博士後期課程全専攻 研究科共通科目		海洋科学技術特別講義Ⅰ 海洋科学技術特別講義Ⅱ

５ 専門科目名及び指導教員一覧

応用環境システム学専攻

＊の付いている指導教員については、募集の有無について未確定ですので、当該教員に直接お問い合わせください。

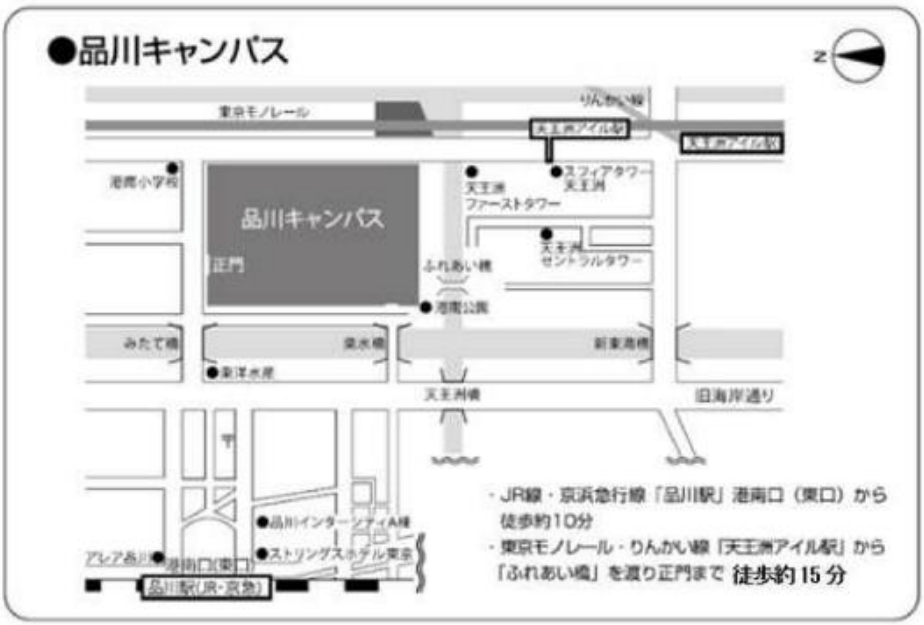
専攻分野名	専門科目名	指導教員名			連絡先ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ (～@kaiyodai.ac.jp)
海洋環境学	藻類学特論	教授		神谷 充伸	mkamiy0
	浮遊生物学特論	教授		片野 俊也	tkatan0
		准教授		宮本 洋臣	hmiy001
	水圏生態化学特論	教授		神尾 道也	mkamio
	海洋生化学特論	准教授		岡井 公彦	mokai01
	生体機能利用学特論	准教授		呉 海云	wuhaiyun
	化学海洋学特論	教授		川合 美千代	michiyo
	海底有機物進化論	教授		山中 寿朗	t.yamanaka
	魚類学特論	教授		茂木 正人	masato
		准教授		板倉 光	itakura-useyaro
	無脊椎動物学特論	准教授		今 孝悦	kon
	資源生態学特論	教授		鈴木 直樹	naoki
	鯨類生態学特論	教授		村瀬 弘人	hmuras0
環境保全システム学	海洋物理学特論	教授		北出 裕二郎	ykitade
		准教授		溝端 浩平	mizobata
		准教授		田中 祐希	ytan002
	海洋情報解析学特論	教授		島田 浩二	koji
	沿岸環境学特論	教授		稲津 大祐	dinazu0
	海洋環境機械学特論	教授	*	戸田 勝善	toda
	応用情報システム工学特論	教授		内田 圭一	kuchida
	応用海洋数理工学特論	教授		上野 公彦	ueno
	海洋環境工学・海洋統計工学	准教授		平田 英隆	hhir001
	海洋統計工学	教授		小橋 史明	kobashi
	海洋底地球科学特論	教授		中東 和夫	knakah0
	海洋地盤工学特論	教授		高橋 英紀	htak001
		准教授		野村 瞬	nomura.shun
	電子デバイス工学	教授		井田 徹哉	tida000
	資源環境学特論	准教授		長井 健容	tnagai
	環境数理解析学特論	教授		中島 主恵	nkimie
	海洋計測工学特論	教授		甘糟 和男	amakasu
	国際海洋学特論	准教授		淵田 茂司	sfuc001
	海洋エネルギー資源化学特論	教授		小林 厚志	akob001
（連携講座）	海洋生産環境学特論	教授		井上 誠章	(連絡先) 甘糟和男教授
海洋利用システム学	海洋知能ロボット工学	教授		近藤 逸人	hkondo
	航路設計工学	教授		田丸 人意	tamaru
	衛星測位システム	教授		久保 信明	nkubo
	移動体最適制御	教授		岡崎 忠胤	okazaki
	海洋施設工学特論	准教授		増田 光弘	masuda
	海上安全工学特論	教授		南 清和	minami
	人間機械系工学	教授		内野 明子	uchino
	海洋計測特論	教授		村井 康二	kmurai0
	知識情報システム工学	教授		古谷 雅理	tfuruya
	運航支援システム特論	准教授		西崎 ちひろ	cnishi0
	レジリエント航法システム特論	准教授		福田 厳	gfukud0
海上安全テクノロジー （連携講座）	海上輸送システム設計特論			（未定）	(連絡先) 南清和教授
	安全推進システム設計工学特論			（未定）	
	海上電波通信・監視工学	准教授		米本 成人	(連絡先) 久保信明教授
		教授		坂井 丈泰	

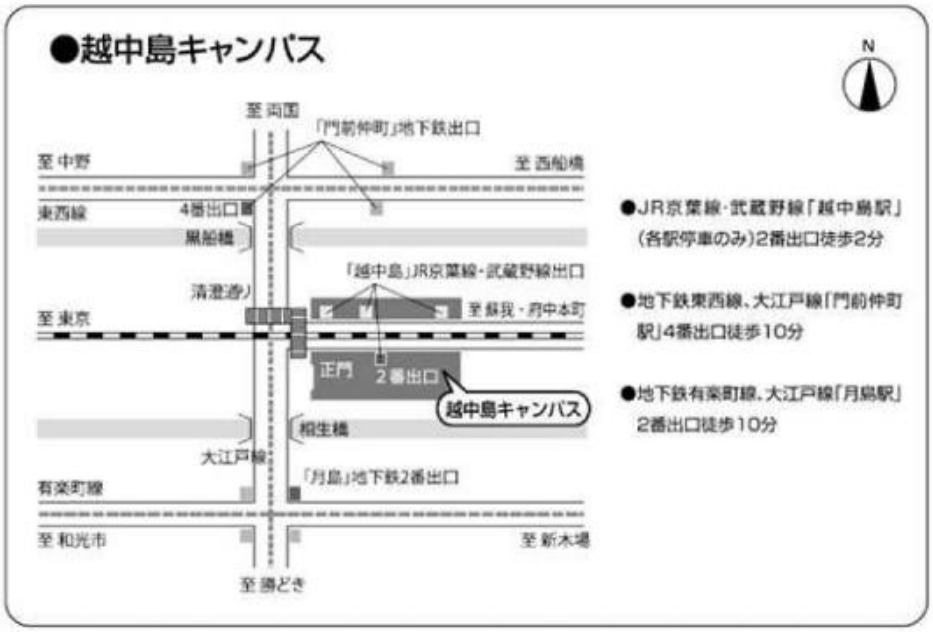
5 専門科目名及び指導教員一覧

＊の付いている指導教員については、募集の有無について未確定ですので、当該教員に直接お問い合わせください。

専攻分野名	専門科目名	指導教員名			連絡先ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ（～@kaiyodai.ac.jp）
ロジスティクス	物流設計工学特論	教授	＊	黒川 久幸	kurokawa
	流通アルゴリズム工学特論	准教授		橋本 英樹	hhashi0
	ネットワーク解析特論	教授		原口 和也	Haraguchi
	応用解析特論	教授		竹縄 知之	takenawa
	情報数理特論	教授		関口 良行	yoshi-s
	離散数理特論	准教授		茂木 康平	kmoteg0
	空間情報工学特論	教授		渡部 大輔	daisuke
	国際交通産業特論	教授	＊	遠藤 伸明	nendo
	産業組織特論	教授		奥村 保規	yokumu0
	交通システム計画工学特論	准教授		坂井 孝典	tsakai2
	統計科学特論	准教授		田上 悠太	ytan001
海洋機械システム学	ロボット制御工学	教授		清水 悦郎	shimizu
	海洋システム制御工学	准教授		小池 雅和	mkoike0
	環境エネルギー工学特論	教授		波津久 達也	hazuku
		准教授		井原 智則	ihara
	材料表面工学	教授	＊	地引 達弘	jibiki
	分子デバイス特論	教授	＊	大貫 等	ohnuki
	マイクロ・ナノ工学	教授		田中 健太郎	kentaro
	数理システム設計工学	教授		田原 淳一郎	jtahar0
	機能材料工学	教授		藤田 渉	wfujit0
	大気放射学	教授		関口 美保	miho
	機械機能要素工学	教授		藤野 俊和	tfujin0
	熱移動現象学	准教授		地下 大輔	djige00
	構造材料工学	准教授		盛田 元彰	morita
	パワーエレクトロニクス	教授		木船 弘康	kifune
	情報通信制御工学	教授		大島 浩太	kxoh
産業政策文化学	沿岸域利用政策論特論	教授		工藤 貴史	kudot
	身体適応学特論	教授		千足 耕一	chiashi
		准教授		藤本 浩一	kfujim1
	環境文学論批評特論	教授		小暮 修三	skogure
		教授	＊	日臺 晴子	h-hidai
		教授		大野 美砂	misa
	水圏環境教育学特論	教授		佐々木 剛	t-sasaki
	食品リスクコミュニケーション特論	准教授		小川 美香子	mogawa
	科学論特論	教授		柿原 泰	ykakihar
		教授		萩原 優騎	yhagiw0
	海洋産業経営論特論	教授		中原 尚知	nakahara
	海洋経済史特論	教授		高橋 周	ctakah0
	地域産業発展論特論	准教授		大石 太郎	toishi0
	国際漁業管理特論	准教授		松井 隆宏	tmatsu2
	海洋社会言語学特論	准教授		今村 圭介	kimamu0
	環境経済政策論特論	准教授		若松 美保子	mwakam0
海洋探査・利用工学（連携講座）	水中探査システム工学特論	准教授		石橋 正二郎	（連絡先）清水悦郎教授
	水中音響システム工学特論	教授		越智 寛	
	浮体利用システム工学特論	教授		大澤 弘敬	

交 通 の 案 内


●品川キャンパス
N
東京モノレール
りんかい線
天王洲アイル駅
港南小学校
品川キャンパス
正門
スフィアタワー天王洲
天王洲ファーストタワー
天王洲セントラルタワー
ふれあい橋
港南公園
みたて橋
東水橋
新東品橋
東洋水産
天王洲橋
旧海岸通り
品川インターシティA棟
ストリングスホテル東京
アレア品川
港南口(東口)
品川駅(JR・京急)
・JR線・京浜急行線「品川駅」港南口（東口）から徒歩約10分
・東京モノレール・りんかい線「天王洲アイル駅」から「ふれあい橋」を渡り正門まで 徒歩約15分


●越中島キャンパス
N
至 両国
「門前仲町」地下鉄出口
至 中野
至 西船橋
東西線
4番出口
黒船橋
「越中島」JR京葉線・武蔵野線出口
清澄通り
至 東京
至 蘇我・府中本町
正門
2番出口
越中島キャンパス
相生橋
大江戸線
「月島」地下鉄2番出口
有楽町線
至 和光市
至 新木場
至 勝どき
●JR京葉線・武蔵野線「越中島駅」（各駅停車のみ）2番出口徒歩2分
●地下鉄東西線、大江戸線「門前仲町駅」4番出口徒歩10分
●地下鉄有楽町線、大江戸線「月島駅」2番出口徒歩10分

学生募集要項に関する問合せ先
〒108-8477　東京都港区港南４－５－７
東京海洋大学　入試課入試第二係
TEL　03-5463-4265
MAIL　n-nyusi2@o.kaiyodai.ac.jp
URL：https://www.kaiyodai.ac.jp/